

報道関係者各位  
プレスリリース

2020年5月28日  
株式会社インフォコーパス

## インフォコーパス、CO<sub>2</sub>濃度測定ソリューションの提供を開始 ～オフィス、会議室、病院など様々な環境での衛生環境の保全をサポート～

株式会社インフォコーパス(代表取締役社長：鈴木 潤一、本社：東京都目黒区、以下 インフォコーパス)は、空間中のCO<sub>2</sub>濃度を測定してクラウド上で管理するソリューションの提供を開始します。オフィス、会議室、病院など、人が集まる空間中のCO<sub>2</sub>濃度を定期的に測定、一定の基準を超えた際にはアラートを発報することで、適時換気を促すことができます。

新型コロナウイルスへの対応が急がれる中、企業や官公庁、病院や学校など、従事者が安心して働けるために、衛生環境の保全の重要性が今までになく高まってきています。いわゆる「3密」を回避するために、適宜換気をする事は非常に有効と言われています。しかしながら、「人が集まり換気が悪い状態」は指標化されていないため、換気をするタイミングは各人の判断に委ねられているのが現状です。

インフォコーパスは、人間の集中力にも大きく影響を与えると言われる二酸化炭素(CO<sub>2</sub>)濃度に着目し、計測場所のCO<sub>2</sub>濃度データをインフォコーパスが提供するIoTプラットフォーム「SensorCorpus(センサーコーパス)」上に自動的に収集・管理をします。基準値を超えた場合にはアラートを発報し、それに応じて換気を促すことができます(※1)。これにより、集中力の改善による「仕事効率向上」や、新型コロナウイルス対策としての「換気の悪い密閉空間改善」の効果が期待できます。

また、センサーコーパスを活用する事で、CO<sub>2</sub>と連動した換気装置の操作(制御)や、CO<sub>2</sub>以外も含めた環境センサー情報の統合(マッシュアップ)を容易に実現でき、衛生環境の保全における包括的および多面的な対策の検討が可能となります。

(※1) 室内の最大CO<sub>2</sub>濃度の制限値は国ごとによっても異なりますが、日本国内においては、建築物における衛生的環境の確保に関する法律(ビル衛生管理法)、労働安全衛生法の事務所衛生基準規則等で規定されています。室内においてはおよそ1,000ppmが換気を目安といえます。

### ■想定する利用シーン

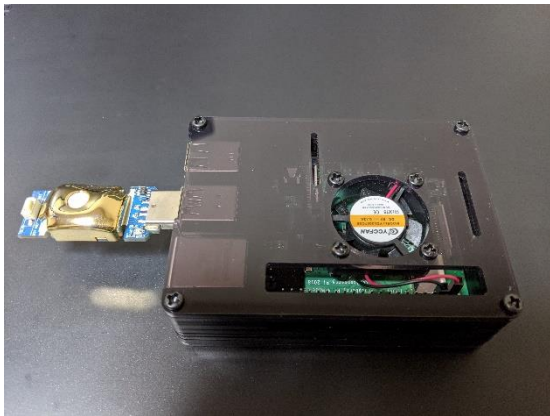
- オフィスの執務スペース、会議室など
- 工場の人が集まりやすい作業場所など

- 病院の待合室、病室など
- 学習塾や室内の習い事など

■ 弊社での検証例

(検証環境)

- 利用センサー：ELT SENSOR 製 MT-200、MB350U
- ゲートウェイ：Raspberry Pi
- クラウド：IoT プラットフォーム「SensorCorpus (センサーコーパス)」



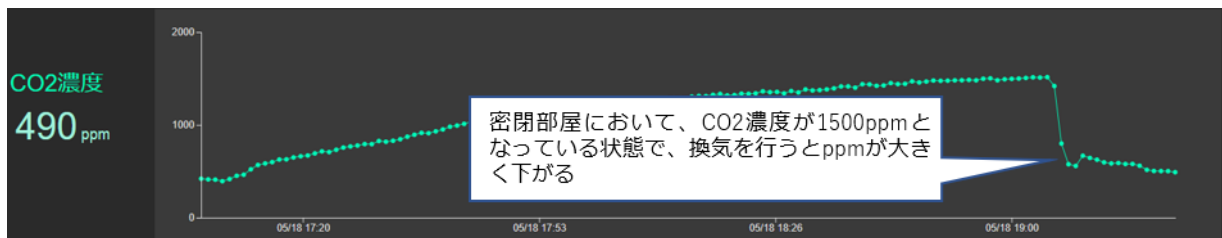
ELT SENSOR 製 MT-200 および  
ゲートウェイ (Raspberry Pi)



ELT SENSOR 製 MB350U

0-700	グリーン	正常
700-1000	オレンジ	注意
1000-1500	イエロー	換気推奨
1500-2000	レッド	換気強い推奨
2000-	パープル	換気必須

CO2 濃度(ppm)に応じたアラート通知基準 (※ 2)



「SensorCorpus (センサーコーパス)」のダッシュボード

(※ 2) ビル衛生管理法、ASHRAE (アメリカ暖房技術協会) 等のレポート等を参考にインフォコーパスにて作成

## ■検証済みセンサー

- ELT SENSOR 製 MT-200
  - 計測情報：CO2
- ELT SENSOR 製 CO2 モニター-MB350U
  - 計測情報：CO2、温度、湿度
- T&D 製 TR-76Ui
  - 計測情報：CO2、温度、湿度
- オムロン製 環境センサ(USB 型) 2JCIE-BU01
  - 計測情報：温度、湿度、照度、気圧、騒音、3軸加速度、eTVOC、eCO2(TVOC 値から算出される CO2 濃度相当値)、不快指数、熱中症警戒度、振動情報（地震回数、振動回数、SI 値\*4)



左から、T&D 製 TR-76Ui、ELT SENSOR 製 CO2 モニター-MB350U、ゲートウェイ、オムロン製 環境センサ(USB 型)、ELT SENSOR 製 MT-200

## ■CO2 濃度測定ソリューション（※3）

（基本構成例：MT-200）（※4）

- 利用センサー：ELT SENSOR 製 MT-200 ×1 式
- ゲートウェイ：Raspberry Pi ×1 式
  - 通信：既設 Wi-Fi 利用
  - 1 分間 6 点の CO2 濃度の平均値、最大値、最小値を SensorCorpus に送信
- クラウド：IoT プラットフォーム「SensorCorpus（センサーコーパス）」
  - ダッシュボード（CO2 濃度の最新値、履歴を参照）※PC やスマートフォンで参照可能
  - データダウンロード（データ保存：1 年間）
  - メールアラート
  - 各種設定（通知先、CO2 濃度基準値補正）

(価格 (消費税抜き))

- 初期費 : 50,000 円～
  - センサーやゲートウェイなどのハードウェア費用キッティング費用を含みます。
  - 現地設置調整および画面カスタマイズ機能は含まれていません。
- 月額 : 10,000 円～ (※ 5)
  - クラウド環境および SensorCorpus[CO2-Edition]の利用料を含みます。
  - ゲートウェイからインターネットへの通信費用は含みません。

(オプション)

- ネットワーク : SIM によるデータ通信

(※ 3) 法人限定での提供となります。個人向けの提供は承っておりません。何卒ご了承下さい。

(※ 4) 上記はセンサー×1 式のみ参考価格となります。100 台以上のセンサーでのご提案や他の検証済み CO2 センサーでのご提案も可能です。お気軽にお問い合わせください。

(※ 5) ご契約期間は 6 ヶ月間からとさせていただきます。

衛生環境の保全においては、様々なセンサー情報を統合して複合的な分析、管理が求められる場面も増えていきます。インフォコーパスでは、IoT/DX の専門会社として、以下のような様々なケースに対応可能です。

(活用ケース)

- [大規模導入] 全国拠点 500 フロアの従業員ワークスペースの CO2,温度,湿度を定期記録
  - 現場で適切なタイミングの換気促進で活用
  - 登録データを分析して、集中度・業務効率向上に向けた運用指導を実践
- [装置連動] 1000ppmを越えたら自動的に換気装置をオン、600ppm まで下がったら換気装置をオフにする環境マネジメント制御機構を構築する
- [学習向上] 学校・塾で生徒の集中力を継続するために、CO2 濃度を可視化して、適度な換気を実施
- [農業支援] ビニールハウスで CO2 濃度を定期記録、CO2 濃度を維持して作物の生産性を向上させる

インフォコーパスは、お客様へのご提案を通じて様々なセンサーを使った衛生環境保全ソリューションの拡充に尽力をしております。

#### ■IoT プラットフォーム「SensorCorpus (センサーコーパス)」について

今後爆発的に増えていく多種多様な IoT データを効率的に管理 (収集、蓄積、加工・整形、正規化、リアルタイム処理等) するための、ソフトウェアプラットフォームです。センサーコーパスを使うことで、IoT システム構築のための時間やコストを大幅に削減することが可能です。また PoC

から大規模 IoT システムまで、システム規模や適用範囲の拡大に合わせて柔軟にシステム拡張することができ、様々なアプリケーション（AI/BI 等）とも API で連携することが可能です。

【会社概要】

商号 : 株式会社インフォコーパス

代表者 : 代表取締役社長 鈴木 潤一

所在地 : 〒153-0064 東京都目黒区下目黒三丁目 5 番 1 号 梶浦ビル 5 階

設立 : 2013 年 6 月 10 日

事業内容 : IoT サービスプラットフォーム、IoT サービス開発、IoT コンサルティング

資本金 : 5,058 万円

URL : <https://www.sensorcorpus.com/>

【本プレスリリースに関するお問い合わせ先】

株式会社インフォコーパス

担当 : 高橋

TEL : 03-5734-1830